

CS-12M 方式

NTT と協力して、1967 年（昭和 42）ごろから海底中継器用高信頼度部品なども含め、CS-36M 方式と可能なかぎり技術を共有する CS-12M 方式（伝送帯域 12MHz、1,600 回線、3 kHz、方式長 7,000 km、最大適用水深 8,000m）の開発を行った。なお、給電方式として最大電圧 6,000V、電流 100mA の直流定電流給電方式が 72 年に開発された。CS-12M 方式は、ケーブルの伝送特性が変化する温度変動の大きい浅海での使用を考えていたので、温度可変利得中継器の開発も行った。

72 年 11 月にはそれまでの成果を総合した海洋試験を相模湾で 10 中継、約 120km のシステムで行い、方式としての動作が適格であることを確認した。さらに、中継器の高信頼度化に重点をおいて開発作業が進められ、76 年末には開発が終了した。CS-12M 方式は、OLUHO ケーブル、沖縄ケーブルなどに適用された。

出典：KDD 社史